

2016年10月24日

西日本電信電話株式会社御中

DOCOMOMO Japan 代表

松隈 洋



## 旧熊本通信病院（現くまもと森都総合病院）保存活用に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20世紀の建築遺産の価値を認めその保存を訴えることを目的のひとつとする国際的な非政府組織の日本支部です。御社が所有する旧熊本通信病院（現くまもと森都総合病院）建築物を、日本近代の重要な建築遺産のひとつと認識し、本会が選定した「DOCOMOMO Japan 100選」のひとつにあげさせていただいております。現テナントであるくまもと森都総合病院移転の報を受けて、その後の建物の保存と活用を改めて要望いたします。

旧熊本通信病院は1956（昭和31）年に、通信省出身の建築家：山田守の設計で建設されたものであり、建物の歴史的・建築的価値が高いものです。壁面が大きく緩やかにカーブするストリームラインは旧東京厚生年金病院（1953）で確立した山田のスタイルを引き継ぎ、横に連続した出窓のスタイルは山田が渡欧したとき目の当たりにした最先端のモダンムーブメントのバウハウスを意識したもので、旧東京通信病院（1937）にも使われ、本建築にも引き継がれました。正面玄関のガラスにくるまれた馬蹄形平面のスロープは象徴的で、つまらなくなりがちな縦方向の移動を豊かにしています。その他にも全体をくるむモザイクタイルなど山田守らしさを凝縮した秀逸な作品です。

先日の震災においても本館はガラスだけでなく（新館のエキスパンション部を除き）タイル一つ落ちなかったとのことで、当時の設計者だけでなく施工技術者たちの気概を感じることができます。今回の震災に耐えたことによる建物への信頼性は現代の新築よりも強いものになります。

山田は東京通信病院以来、日本各地の病院設計の実績が数多くあり、多くの病院設計者の間でも教科書のように参照されましたが、現在では解体が進み、本建物と高松、横浜の3件を残すのみとなってしまいました。御社のルーツでもある、この偉大な近代建築家の作品を、また御社のみならず、熊本市民さらには国民の誇れる財産であるこの建物を、後世に適切な形で継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

尚、本会は、この建築の保存に関して、学術的な協力を可能な限りさせていただく所存です。

敬具